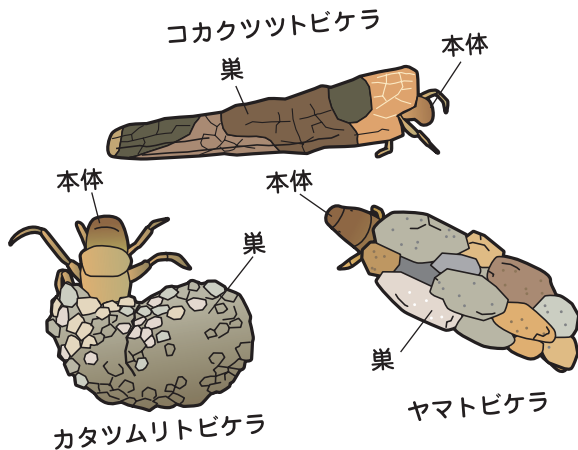


石？ 枯葉？ いや、トビケラだ！

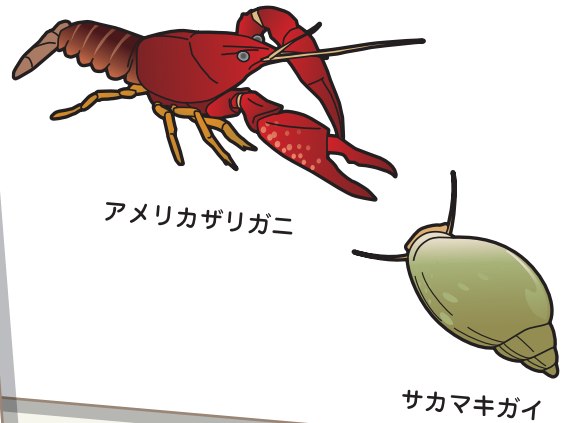
トビケラの幼虫には、河の中にある材料と口から出す糸を使って巣を作り、身を守る種がたくさんいます。巣の形や材料は種類によって異なり、枯葉を切つてつなぎ合わせたもの、砂粒をくっつけたもの、小さい石をつなぎ合わせたものなどさまざまなものが見られます。



外国から連れてこられた生き物たち

日本には人間の活動によって外国から入ってきた生き物がたくさんいます。中には、もともと日本にいた生き物の生息場所を奪ったり、雑種をつくったり、農作物を食べたりして、問題を起こしているものもいます。

指標生物のなかにも2種の外来種がいますが、そのうちアメリカザリガニは、水草を食べてほかの生き物の隠れ場所を無くしたりします。



なが 流されてしまわないように・・・河川に生きる虫たちの工夫

川で生活する生き物は、それぞれ流されてしまわないように工夫を凝らしています。たとえば、ヒラタカゲロウやヒラタドROMシは平たい体をしており、石にぴったりと張り付いて生活しています。カワゲラやコオニヤンマは体も平たいですが、さらにしっかりと石や流木等につかまれるよう鋭いつめも持っています。また、動きの遅いコガタシマトビケラは砂で作った巣を岩に固定してその中で生活しています。

